

日本気象学会1998年度春季大会の報告

日本気象学会1998年度春季大会は、KKR ホテル東京と気象庁を会場として1998年5月27日(水)～29日(金)に行われた。参加者数(前納登録者と当日受付者の合計)は726名(一般会員458名, 学生会員164名, 非会員104名)であった。

2日目午後には、KKR ホテル東京の瑞宝の間において、「予測可能性—カオスへの挑戦」と題してシンポジウムが行われた。引き続き総会が開かれ、その中で、梶川正弘会員、佐藤薫会員、高藪縁会員に日本気象学会賞が、竹内清秀会員と立平良三会員に藤原賞が授与された。総会終了後に受賞記念講演が行われた。

今回は昨年に引き続き、ポスターによる一般発表と特定のテーマに基づいてコンピーナーが編成する6つの専門分科会とが行われた。ポスター発表の件数は261件*, 分科会での発表件数は71件で、計332件の発表数は昨年春季(346件), 秋季(352件)よりやや少なかった。なお、分科会への申し込みで不採用となったものの中2件が申込者の意向によりキャンセルとなってい

る(それ以外はポスターでの発表となった)。

会期中およびその前日と翌日には、個別のテーマによる研究会が3件開かれた。

最後に、今大会事務局として大会準備・運営にご尽力頂いた気象庁予報部の皆様に深く感謝の意を表します。

1998年6月 講演企画委員会

*) 講演企画事務局のミスにより、ポスターへの申込の一部(2件)がプログラム・予稿集に掲載されず、発表していただくことができませんでした。ご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。

今後は十分気をつけて作業いたしますが、万一同様の問題が発生した場合、発表者が希望される時には、プログラムに予稿が載っていなくても講演していただけるような措置をとる(予稿は次の大会予稿集に掲載する)こととしたいと考えています。

大会新方式についてのアンケート結果

昨年に引き続き、新方式についてのアンケートを行いましたところ、会場内で回収されたものの他、FAX等で送られてきたものもあわせて18通の回答がありました。ご協力ありがとうございました。

昨年の回答数(70通)に比べて、かなり少なかったのは、多くの会員が「当面様子を見る」という立場をとったことの現れと思われる。

講演企画委員会といたしましては、寄せられた意見をもとに、改善のための検討を進めていきたいと考えています。

なお、分科会のテーマ選定等についてのご批判をいくつかいただいておりますが、これは現在公募によって決定しているものですので、テーマや内容の充実のために、会員各位の積極的な応募をお願いしたいと思います。

また、大会の運営についての御意見につきましては、頂いた意見は可能な限り今後に生かしていきたいと考

えますが、大会運営はあくまでも学会員のボランティアによるものであり、サービスには(財政的にもマンパワーの面でも)限界があることをご理解下さいませようお願いいたします。

1998年6月 講演企画委員会

設問1: 今回の方式は議論の活性化に役立っていると思いますか?

1. 役立っている.....10
2. どちらとも言えない.....4
3. 役立っていない.....3
4. その他.....1

具体的意見

・やり方の問題ではなく、コンピーナー・座長・参加グループの力量の問題

設問2：将来、春季大会の方式をどうすべきだと考えますか？

1. 今回の方式を続けるべきだ…………… 9
 2. 従来の方式に戻すべきだ…………… 5
 3. その他の方式を導入すべきだ…………… 4
- 番外：わからない…………… 1

具体的意見等

- ・分科会もあって良いが「一般口頭発表」も併せて行う
- ・ポスターの概要紹介を廃止して、その時間を口頭(分科会?)に回す
- ・発表件数を1人1件にする
- ・分科会の目的を明らかにする(専門発表会・アドホック的性格・教養番組):いずれでも良いが、各セッションで明確に意識することが必要
- ・ポスター概要紹介を1人5分位確保し、実質的に口頭発表とポスター発表の両方を行うのが良い。分科会を廃止すれば可能ではないか。テーマを決めた講演会はシンポジウムとして実行されており、他の分科会は不要である
- ・会場数を増やす
- ・従来のスペシャル・セッションの制度だけで充分ではないか。毎回6題もの専門分科会のテーマを出すのは無理
- ・泡沫発表の自粛・制限を

設問3：ポスター発表の良い点・悪い点(カッコ内は同意見の数)

[良い点]

- ・議論する時間が充分ある(12)
- ・気象学会で発表される分野は多岐にわたる。マイナーな領域でも、強引に関連セッションに組み込まれることなく、かつ自由なスタイルで発表できるのがポスターのメリットだと感じた
- ・発表の準備が大変なので勉強になる、論文にまとめる上でも有効

[悪い点]

- ・自分が発表している間は、他の人の発表を見に行く余裕が少ない(3)
- ・ポスターの総数に比して講演時間が短い(3)
- ・概要紹介は時間のムダ(3)
- ・会場のスペースが足りない(2)
- ・やや安易な発表が増加した(2)
- ・1セッションでせいぜい3~4人しか聞けない。な

るべく多くの人がどうしているのを知りたいというのが学会の興味の1つ。口頭発表なら短時間に多くの人に紹介し、セッション終了後に個別に議論できる(2)

- ・関連分野の多数の発表が同時進行しているため、見たいポスターをゆっくり見てられない。1つのトピックは1つの時間帯に集中させず、分散して欲しい(2)
- ・他の人のコメントや質問をきけない(これが学会の楽しみ!)(2)
- ・混んでいて議論が発散しがち。一貫した説明が聞けない。これではポスターを作る多大な労力が無駄になる
- ・ききたい時に説明してくれる人がいない
- ・話を途中から聞くことが多く、消化不良気味
- ・拘束時間の分割は必要ない
- ・大勢の前で自分の研究の概要を知ってもらうためには従来の口頭発表に比べてインパクトが弱い(実質的な聴衆の数がかなり少なくなる)
- ・ポスターに向く発表とそうでないものがある。カラー図表や派手なイラストに目がいつてしまい、内容がおろそかになる可能性がある
- ・立ちっぱなしでひどく疲れた

設問4：専門分科会の良い点・悪い点

[良い点]

- ・コンピーナーがしっかりしていると、良質なディスカッションができる
- ・質の高い研究発表と充実した討論
- ・それぞれまとまった話を聞いた。招待講演方式は良い
- ・時間がゆったりとしているので、内容が良くわかる
- ・落ち着いて発表が聞け、ある程度議論もできる
- ・ポスターに比べ、多くの人との議論が深まり得る

[悪い点]

- ・分科会のテーマ選びが問題に思えた。発表(口頭)する場がないと不満を言う人が多いようだ(2)
- ・発表者が時間を使い切り、質疑の時間が無い(これでは従来通り)。司会者の進め方も問題(2)
- ・分科会によっては従来のセッションとどう違うのかわからないものがある。オーガナイザーの工夫が必要。多くの人々の口頭発表を犠牲にして行うほどの内容があったとは思わない
- ・テーマが大きな研究機関のプロジェクトに片寄りが

ち。「内輪の研究会」を学会という名のもとで大きな時間を割いてやっている

- コンビナーの意図で講演者が決められるという形式は全学会員の「自由な研究発表の場」であるべき学会の姿をゆがめる。招待講演を廃止すること（外国人など一部を除いて）、申込者を平等に扱うことを提案する
- セッションのテーマが限定される
- 専門家だけの集まりになりがち。ウェイトを減らすか、範囲を広くするべき
- 分科会の性格が不明。専門グループの発表なのか夏期大学なのか？
- 職場の都合など、春の方が出席しやすい会員も少なくないから、年2回の大会のいずれでも一般口頭発表の機会を保証すべき
- 学生の発表の練習という教育的観点からも、なるべく多くの人に口頭発表の機会を与える従来の方式が好ましい
- 自分の研究に関連するようなテーマがほとんどなかった

- 目的とした討論の活発化がまだ充分でない
- もっと時間に余裕をもってプログラムをくんでほしい

設問5：その他の意見

- 今回のシンポジウムは良かった（3）
- スクリーンが小さく後ろからは見えなかった（3）
- ポスター会場の近くに、談話室（休憩スペース：イスが置いてあるだけでも良い）があるともっと良かった（2）
- ポスター掲示場所の大きさを、cm単位で、大会プログラム（予稿集と「天気」）に明記しておいてほしい
- ベストポスター賞の投票締切が早すぎて、議論が盛り上がっているうちに締め切り時刻が過ぎてしまう
- 名札について。参加費等前納者分については、名前や所属等の項目を予め印字しておいてほしい
- メールを読めるよう端末を用意してほしい
- 気象情報の工学的利用というテーマは気象学会としては扱わないのだろうか？

==== 支部だより ====

中部支部第5回公開気象講座のお知らせ

日本気象学会中部支部では気象に興味を持っている一般の方を対象に公開気象講座を行っており、5回目の今年は「気象災害を防ぐ」というテーマで行います。

日時：1998年8月27日（木） 10：00～16：00

場所：名古屋国際会議場141, 142会議室(240名収容)
名古屋市熱田区熱田西町1-1
TEL：052-683-7711

開講の辞

周東健三（中部支部長，名古屋地方気象台長）

1. 自治体における防災活動 10：10～11：10
織田善夫（愛知県）
2. 防災気象の現状と将来 11：10～12：00
日野 修（名古屋地方気象台）

3. 集中豪雨のメカニズム 13：00～14：00
坪木和久（名古屋大学）
4. ドップラーレーダによる雨と風の監視 14：00～15：00
石原正仁（関西航空地方気象台）
5. 質問コーナー 15：00～16：00

参加費：900円（テキスト代500円を含む）

問い合わせ先：

名古屋市千種区日和町2-18 名古屋地方気象台予報課
日野 修 TEL：052-751-5125
名古屋市千種区不老町名古屋大学大気水圏科学研究所
永尾一平 TEL：052-789-3484
e-mail：nagao@ihas.nagoya-u.ac.jp